



12 たまいくぼかわこしばあと  
**玉井窪川越場跡**

熊谷市玉井

現在川は細いが、安政2年(1855)の「五街道細見独案内」に“満水  
のときは、往来を人足にて渡す”  
という記録があるほどの難所だった。



北条軍・豊臣軍による  
深谷城の跡  
深谷城は康房憲による  
北条氏に果敢の代に北条氏に豊臣軍の城であった。城の歴史を静かに



13 明治天皇御小休所跡

熊谷市新堀

龍原バス亭の少し先に建つ石碑。「明治天皇御小休所跡」の文字が刻まれる。現在、周辺は住宅地となっており、昔の面影はない。



深谷七夕まつり

中山道を中心に、商店街地域で毎年7月の3日間行われる。江戸時代の宿場町の頃より始まったとされ、北関東一を誇る七夕まつり。





中山道まめ知識

上杉軍の攻撃を受けた  
深谷の歴史

天正2年(1456)、上杉軍が深谷を築城とされる。小田原・徳川軍と対抗するも、憲盛の軍門に下り、この後の攻撃で落城の憂き目にあった。成址公園はこの激動の歴史に物語っている。

中山道まめ知識

上杉家ゆかりの国済寺は  
旧跡や文化財の宝庫

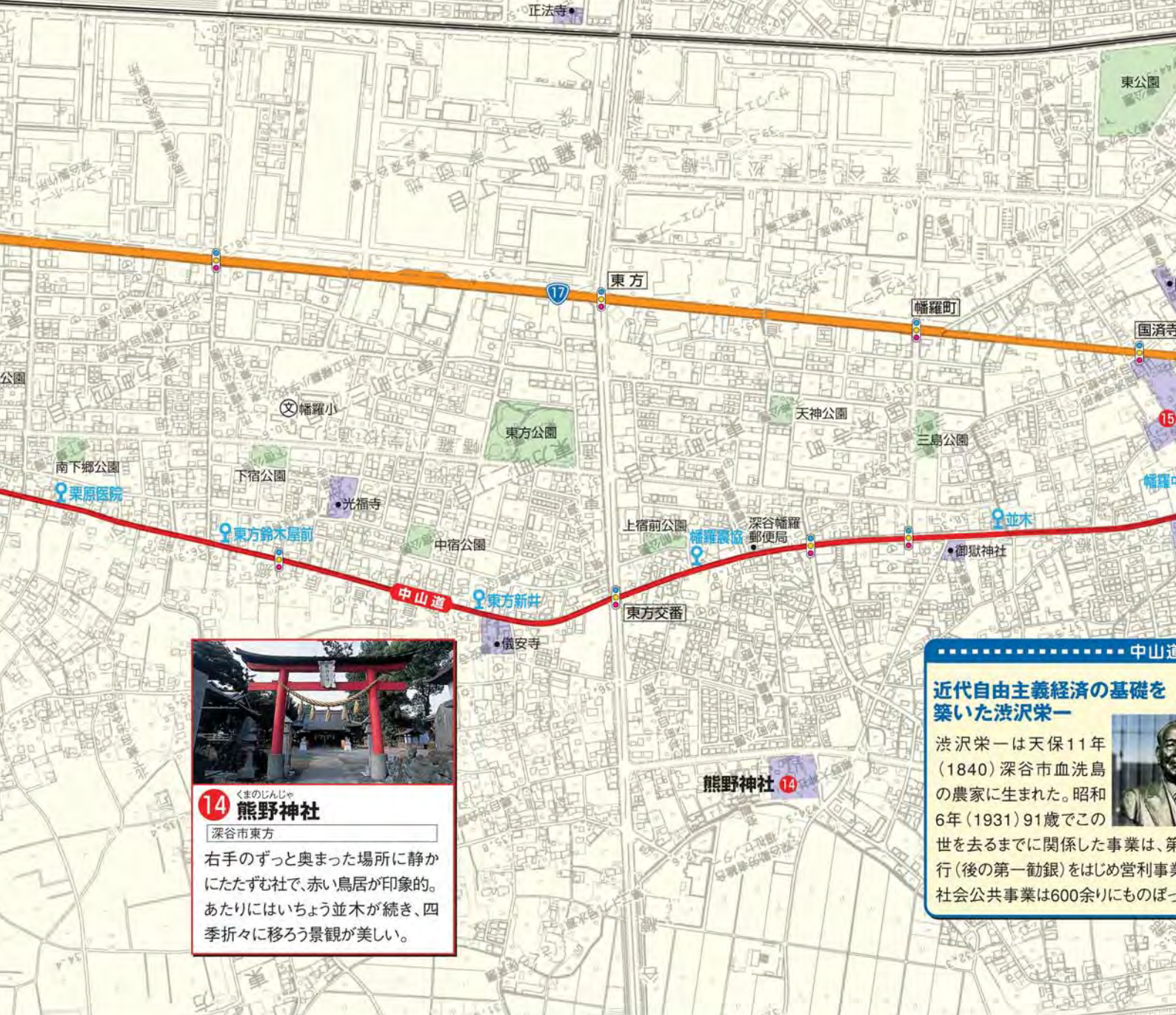
上杉憲英は高僧の峻翁翁山禪師を招き、一族が居住した館の中にこの寺院を創建した。その後天正18年(1590)には、徳川家康から寺領30石の朱印状を下付された。境内には憲英の墓が現存し、県の旧跡に指定されている。



15 国済寺

深谷市国済寺

臨済宗南禅寺派の寺院で、康応2年(1390)に深谷城主の上杉憲英が創建し、当時は約8万坪もの広さを誇った。黒門は市の文化財。



14 熊野神社

深谷市東方

右手のずっと奥まった場所に静かにたたずむ社で、赤い鳥居が印象的。あたりにはいちよう並木が続き、四季折々に移ろう景観が美しい。

近代自由主義経済の基礎を築いた渋沢栄一

渋沢栄一は天保11年(1840)深谷市血洗島の農家に生まれた。昭和6年(1931)91歳でこの世を去るまでに関与した事業は、銀行(後の第一勧銀)をはじめ営利事業、社会公共事業は600余りにものぼる。







### 16 常夜燈

じょうやとう

深谷市原郷

いちよう並木がとぎれるあたりに建つ高さ4mの大きな常夜燈は、深谷宿の東の入口の目印。約1.7km先の田所には、西の常夜燈がある。



### 20 深谷駅

ふかやえき

深谷市西島町3丁目

明治時代風に仕上げたレンガ造りの駅舎で、市民に親しまれている。駅前には、郷土が生んだ偉人・渋沢栄一の像も建つ。

## 深谷宿

日本橋からの距離  
9里5町40間 (約75km)  
家数：524軒  
人口：1928人  
本陣：1軒  
脇本陣：4軒  
旅籠屋：80軒

## 深谷市

深谷駅

ふかや

16 常夜燈

17 東源寺

19 三光院

18 深谷城址公園



### 17 東源寺

とうげんじ

深谷市稲荷町

左手の山門の前には、「死ぬ事を知って死ぬ日や としのくれ」と銘のある自然石がある。加賀国の俳人である菊岡坊祖英によるもの。



### 18 深谷城址公園

ふかやじょうしこうえん

深谷市本住町

右手一帯が石垣に覆われた城址公園で、内堀が当時の姿を思い起こさせる。東側にある富士浅草神社の池と水路は、当時の外堀であった。



### 19 三光院

さんこういん

深谷市本住町

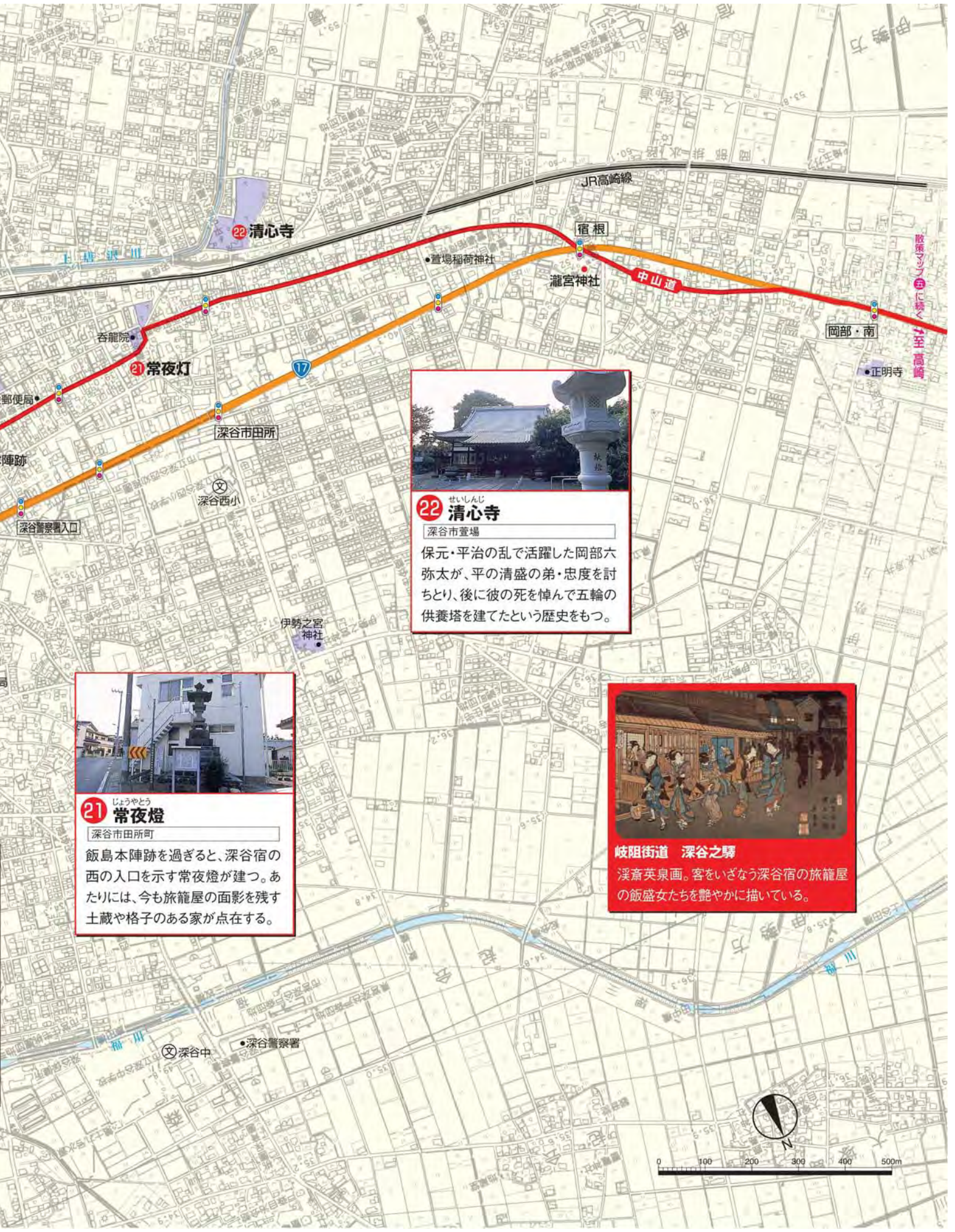
浄土宗の名刹でまたの名を「大翁山浄安寺」。徳川家康の甥で、25歳の若さで没した深谷城主・松平康直の墓があることで知られる。

道まめ知識



第一国立銀  
業が約500、  
っている。





散策マップで橋へ至る高崎



### 22 清心寺

深谷市萱場

保元・平治の乱で活躍した岡部六弥太が、平の清盛の弟・忠度を討ちとり、後に彼の死を悼んで五輪の供養塔を建てたという歴史をもつ。



### 21 常夜燈

深谷市田所町

飯島本陣跡を過ぎると、深谷宿の西の入口を示す常夜燈が建つ。あたりには、今も旅籠屋の面影を残す土蔵や格子のある家が点在する。



### 岐阻街道 深谷之驛

溪斎英泉画。客をいざなう深谷宿の旅籠屋の飯盛女たちを艶やかに描いている。



0 100 200 300 400 500m